



Press Release

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4-24
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229

「平成 27 年度公募助成 (活動及び研究)」の 助成先の決定について

J R 西日本あんしん社会財団では、平成 27 年度も「安全で安心できる社会」の実現に向け、心身のケア、防災、救急救命、事故防止など身近な「いのち」を支える活動及び研究を公募いたしました。このたび審査を終え助成先を決定いたしましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 応募及び選考結果

本公募助成では、事故、災害や不測の事態に対する備えやその後のケアに関連する活動や研究を対象に募集いたしました。その結果、活動助成 65 件、活動助成（特別枠）25 件、研究助成 46 件の計 136 件のご応募をいただきました。

ご応募いただいた全ての案件について、当財団の事業審査評価委員会において厳正な審査を実施したところ、助成の趣旨に合致した大変質の高い応募が多数寄せられたことから、前年度を上回る 58 件、5,068 万円の助成を行うことを決定いたしました。

	応募件数	助成決定		
		件数	金額	採択率
活動助成	65 件	32 件	1,879 万円	49%
活動助成（特別枠） ^注	25 件	12 件	755 万円	48%
研究助成	46 件	14 件	2,434 万円	30%
合計	136 件	58 件	5,068 万円	43%

注 「活動助成（特別枠）」は、東日本大震災や平成 23 年台風 12 号、平成 26 年広島土砂災害の被災地・被災者支援に関する活動を指します。

※ 各助成先の助成対象テーマは、別紙 1 「『平成 27 年度公募助成（活動・研究）』助成先一覧」をご参照ください。

※ 事業審査評価委員会における審査状況の詳細及び審査総評は、別紙 2 「『平成 27 年度公募助成（活動及び研究）』の審査結果について」をご参照ください。

2. 助成期間

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの 1 年間です。

3. その他

(1) 平成 27 年 3 月 24 日（火）15:30 より、ホテルグランヴィア大阪 20 階「鳳凰」にて、平成 27 年度公募助成贈呈式を執り行う予定です。

(2) 募集要項等、本公募助成の詳細はホームページ (<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>) をご覧ください。



【活動助成】

(団体名50音順)

活動名称	団体名	主な活動内容
遺族の悲嘆を分かち合い・ささあいい助け合って前向きに!!	特定非営利活動法人 遺族支え愛ネット	遺族同士が悲嘆を分かち合える場を提供し、サポートを行うことに加え、「いのち」の講演会等を通じて社会に貢献する活動を行う。
災害時要援護者支援活動/稲野町と隣接地域社会と地域教育機関のコラボレーション	稲野自治会	災害時の要援護者支援を目的に、隣接地域社会や近隣学校とともに防災講演会や合同防災減災訓練を実施する。
心と体のケアとしての海洋セラピー体験	特定非営利活動法人 オーシャンゲートジャパン	事故や災害、学校や社会の環境の影響により心身のバランスを崩した青少年と家族に対し、和歌山の海・自然を利用した海洋セラピー体験を通じて心身のケアを行う。
佐用町久崎における『災害ツアーズ』創設のための防災意識の共有	関西学院ヒューマンサービスセンター	兵庫県作用町で、「災害ツアーズ」創設に必要な情報や人材を発掘し、水害の記憶を共有するための小学生を対象とした防災イベントを行う。
災害時の活動を安全に行うための新資器材の開発	救命救助研究会	災害時の救命救助活動中のヒューマンエラーによる事故を防止し、悪環境下での医療行為を少しでも安全かつ容易にできる新資器材を開発する。
助けよう! 大切ないのち さらなる救命率向上を目指して	京都橋大学 救急救命研究会TURF	心肺蘇生法を広く普及させるため、防災訓練や講習会を実施するほか、多数の人が集まるイベントで心肺蘇生法の体験ブースを設け、簡単な講習指導を行う。
大切な人を突然亡くしたおとなたちへの包括的支援構築事業	特定非営利活動法人 グリーフサポートハウス	遺族が抱える心的混乱や法律関係の課題の早期解決に向け、ワンストップ型の対応窓口を開設して専門家の相談へつなげるとともに、その相談費用を支援する。
グリーフサポートラトル大津(自死を含む遺族支援)	グリーフサポートラトル大津	毎月定例会を開いて、遺族が安心して語り合い分かち合う時間と場所を提供するとともに、グリーフケアについて学ぶ講座を年4回開催する。
第6回 全国学生防災書展	特定非営利活動法人 健康まちづくり推進協会	書を通じて青少年の防災・救命に対する意識を啓発し、自然災害の教訓を後世に活かすため、全国の小中高生を対象に「防災」をテーマにした書展を開催する。
高齢者の災害記憶の収集と活用	公益財団法人 公害地域再生センター	過去の災害の記憶を継承して地域の防災力を高めるため、高齢者からの聞き取りや文献調査を実施し、災害の記憶の効果的な継承方法を検討のうえ、冊子等を作成する。
ラダー・レスキュー・システム講習会(梯子を使った救助方法)	特定非営利活動法人 ジャパン・タスクフォース	全ての消防本部に配備されていて容易に入手しやすい梯子(ラダー)やロープを用いた救助方法に関する知識と技術を広める講習会を開催する。
膠原病専門医のデータベース化と有事対応のためのマップ化	全国膠原病友の会(事業部)	災害時に対応することが可能な膠原病専門医を即座に確認できるシステムの構築に向けて、全国の膠原病専門医及び医療機関を把握してデータベース化、マップ化する。
災害時における臨時災害放送局開設のための準備・支援態勢の構築活動	特定非営利活動法人 高槻ブロードキャスト	被災者に有用な情報を発信する臨時ラジオ放送局を速やかに開設できる態勢を構築するため、ハード面の整備と人材育成を進めるとともに、開設訓練を実施する。
応急手当講習	鶴舞地区自主防災・防犯協議会	地域住民への救命処置普及のため、地区内各自治会やマンション管理組合を通じて、心肺蘇生法・AED使用法、その他応急手当講習を毎月実施する。
若者向けの防災意識啓発講座	D.D for Japan	若者の地域防災活動への参画を増加させることを目的に、消防等と連携しながら、中高生・大学生向けの防災意識啓発講座を主催し、独自の資格認定も行う。
全国実施可能な汎用性のある減災プログラムの開発	一般社団法人 72時間サバイバル教育協会	「救援が来るまでの72時間をどう生きるか」に特化した減災プログラムを、どこでも実施可能な汎用性のあるプログラムとして開発し、その指導コーチを養成する。
外国人が災害時安全に避難できるための事業	特定非営利活動法人 奈良国際協力サポーター	情報弱者である外国人が災害時に安全に避難できるよう、アンケート調査を実施のうえ、災害時に有用な情報をまとめた冊子を作成、自治体に配布し、学習会を開催する。
事故・災害での突然死の家族へのグリーフケア	虹色の音	突然死により大切な人を亡くされた遺族へのグリーフケアを行う。体験談の語りや音楽療法を通じて、いのち、生きることの大切さを伝え、生きる勇気を取り戻してもらおう。
災害時の病院ボランティア活動の推進	特定非営利活動法人 日本病院ボランティア協会	災害時の病院機能をより充実させるため、病院とボランティアのコミュニケーションを深めるべく、災害時の病院ボランティア活動についての研修会・ミニ集会を開催する。
災害救助犬の育成事業	特定非営利活動法人 日本レスキュー協会	事故・災害時に行方不明者を捜索する災害救助犬の育成とともに、災害救助犬の社会的認知を高め、有事の際に力を発揮できるよう関係機関と良好な関係を築く。
たかつき川キッズ調査隊〜川遊び安全マップを作ろう!〜	特定非営利活動法人 ノート	安全な川遊びの方法や身近なものを使った救助方法を体験する学習プログラムを実施するほか、子どもと地域住民が協働して「川遊び安全マップ」を作成する。
家族や愛する人を失った方々を支える。	はすの会	家族を失った方等を対象にグリーフケアの専門家による講演会と少人数での分かち合いの会を実施する。また、東日本大震災の仮設住宅を訪問しグループ懇談を行う。
自死遺族の苦悩や自責感を和らげる相互支援のための小冊子作成配布	特定非営利活動法人 働く者のメンタルヘルス相談室	自死遺族の自責感を和らげるような環境を整えるため、研究者や自死遺族の方々等との意見交換ワークショップを実施し、セルフケアのマニュアルを作成・配布する。
災害時に生き抜くチカラを育む「レッドベアサバイバルキャンプ」	特定非営利活動法人 プラス・アーツ	災害時に生き抜く「たくましさ」「2つのソウゾウリョク(創造力と想像力)」を養う場として避難生活体験キャンプを実施し、災害時に地域を支える人材を育成する。
JR福知山線列車事故被災者支援募金イベント〜フレンズかわにし2015	フレンズかわにし実行委員会	事故の風化を防ぎ、安全を訴えるイベントを開催し、講演や音楽演奏、展示等を行うとともに、事故被災者支援のための募金を呼びかける。
みんなで作ろう! 防災かまどベンチ	平群町ボランティア連絡協議会	住民・行政・学校・企業・ボランティア等が平時はベンチ、災害時はかまどになる「防災かまどベンチ」を協働製作し、さらに炊き出し訓練を行って防災意識を向上させる。
外国籍住民のための防災教育出前授業の実施、並びに「やさしい日本語」勉強会の実施	「やさしい日本語」有志の会	災害弱者となりやすい在住外国人に防災意識や防災知識を得てもらおうための出前講座を実施するとともに、避難情報等をやさしい日本語に翻訳・活用する勉強会を実施する。
「命」をテーマの講演会と朗読劇	朗読ういっしゅ	命と生きることの尊さを一人でも多くの人に伝えることを目的に、命をテーマにした朗読劇と命の大切さを伝える講演会を開催する。
水害フォーラムキャラバン	特定非営利活動法人 リスクデザイン研究所	水害被災地3箇所、避難の状況や復興段階毎の課題等を検討するためのヒアリング調査やフォーラムを開催し、その成果を情報紙等で他の地域にも広く発信する。
保育園児などに対する従来にない新しい防災啓発活動	特定非営利活動法人 和歌山県木質資源開発機構	保育園児と保護者を対象に、間伐材等を薪に用いるペール缶コンロを使って備蓄食料の試食体験を行うとともに、防災ソングを活用した防災教育及び避難訓練を実施する。
災害に備える	特定非営利活動法人 和歌山レスキューサポートバイクネットワーク	ライフライン断時に機動力を発揮するオートバイと簡易無線を使って、迅速に情報収集・伝達を行うための実践的な訓練を行うほか、地域イベントを通じて啓発活動を行う。
～忘れない～ 4.25追悼のあかり	忘れない 追悼のあかり実行委員会	JR福知山線列車事故で亡くなられた方の追悼を行い、皆が思いを共有し命の大切さを語り伝え、事故の風化防止と再発防止に繋げる集いを開催する。
活動助成小計 32件		

「平成27年度公募助成(活動・研究)」助成先一覧

【活動助成(特別枠)】

(団体名50音順)

活動名称	団体名	主な活動内容
みんな仲間だっちゃ！子ども未来図書館 学習サポート隊	アジア子ども基金	地域で子どもを育て、その子どもたちが地域を支える循環をつくっていくため、石巻市に開設した「子ども未来図書館」で、学習サポートや読み聞かせ会を実施する。
ふくしまキッズ2015夏 日本海・京都プログラム	特定非営利活動法人 芦生自然学校	福島の子どもたちが豊かな自然の中で遊びのびと過ごせる機会として、京都美山の山村集落を拠点に小学生とボランティアが共同生活を行うフリープログラムを実施する。
福島県浜通り地方からの避難者の西日本における交流活動	一般社団法人 関西浜通り交流会	福島県浜通り地域から関西に避難している人々に対し、関西在住の浜通り出身者を中心に構成されたスタッフが、気兼ねなく交流できる場を提供する。
被災地の元気に貢献する、被災地・大阪間の高校生交流事業	がんばろう！つばさネットワーク	被災地の高校生を茨木市へ招待し、親善試合やホームステイ等を通じて交流を重ねることで、被災地へは元気を与え、地元には防災に繋がる地域内連携を構築する。
『双葉町応援隊 絆』地域と共に	ゴンターズ高原スポーツ少年団	被災地の意向に沿った交流ができつつあることから、息の長い支援を行って被災地の自立を促すとともに、京丹波町の子どもの育成と町づくりにもつなげる。
夏休み 疎開・保養プロジェクト	心援隊	東日本大震災で被災した親子に心身の健康を取り戻してもらうため、大阪で約1週間の保養プロジェクトを催し、被災者同士、移住者や支援者と交流する場を設ける。
東北の手しごと展in神戸	東北の手しごと展神戸実行チーム	東北被災地の方々の手作りクラフト作品の展示や被災者を招待して現状報告をしてもらうことで交流し理解を深めるとともに、展示品の売上金を寄付し被災地を支援する。
被災地の心身障害児を対象とした宿泊体験	奈良精神科作業療法勉強会	障害や病気を抱えた福島の子どもたちを奈良に招待し、作業療法士がサポートしながら共に過ごす中で、集団で活動した体験をその後の自信につなげてもらうようにする。
みちのくだんわ室(東日本大震災による県外避難者の癒しの場)	東日本大震災・暮らしサポート隊	関西在住の避難者のグリーフケアの場「みちのく談話室」を継続開催するとともに、帰郷された人を対象に「出張だんわ室」を開催し、避難者の今を伝えるたよりを発行する。
宮城県南三陸町への継続した支援のとりくみ(海の虹プロジェクト、復興支援餅つきツアー等)	東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア	南三陸町の中学生を京都に招いて応援者の存在に気づいてもらったり、漁協や仮設住宅等で復興支援餅つき大会を開催し、被災者の復興意欲を支える心のケアを行う。
第三回 東北の中高生による東日本大震災からの教訓講演会、及び防災アトラクション	特定非営利活動法人 姫路発 中高生のための東日本災害ボランティア	姫路において、東北の中高生による東日本大震災から得た教訓についての講演会と災害時の状況を疑似体験できる防災訓練をあわせて行い、災害対応力の向上を図る。
原発事故被災当事者による保養キャンプづくり支援事業	福島の子どもを招きたい！明石プロジェクト	福島県内に立ち上がろうとしている保養キャンプ主催グループの団体結成を支援し、保養キャンプ企画・運営等を援助して、将来的に継続していけるように活動基盤をつくる。
活動助成(特別枠)小計 12件		

【研究助成】

(研究者名50音順)

研究名称	研究者名	主な研究内容
津波常襲地域における災害伝承の特性と構造に関する研究	大阪府立大学 特認助教 石原 凌河	災害伝承の特性と構造を明らかにすることにより、災害伝承に関する理論的枠組みの構築を行い、それを活用した防災まちづくりを展開するための研究基盤を確立する。
スマートフォンを活用した市民救助者に対する心停止場所及びAED設置情報提供の試みと効果検証	京都大学 健康科学センター 准教授 石見 拓	スマートフォンを活用し、救助者の行動を地理的・時間的に捕捉、共有することで、救助者及びAEDが迅速に現場に到着するシステムを開発し、モデル地域に導入する。
災害時に迅速かつ詳細な情報収集を行う飛行ロボットに関する研究	神戸大学大学院 システム情報学研究科 助教 浦久保 孝光	災害時に迅速かつ詳細な情報収集を行うことができる、開発中の飛行ロボットについて、自動飛行制御系を設計し、実験による検証を経て改良を行い、完成させる。
交通事故被害者に対する心理的支援モデルの構築と支援者養成	帝塚山大学 心理学部 教授 大久保 純一郎	交通事故被害者を支援するための効果的な心理的支援モデルを作成するとともに、さらにそのモデルから支援者の養成プログラムの作成、実施及び効果評価を行う。
鉄道車両乗降時における安全性と利便性を備えた新機構車椅子の研究開発	大阪産業大学 工学部 交通機械工学科 教授 大津山 澄明	鉄道車両とプラットフォームとの段差・隙間を渡し板を使わずに乗り越えることができるコンパクトで軽量、手軽で機能的な新機構搭載車椅子を開発する。
公共放送で使われる人工合成音声聞き取りにくいコミュニケーション障がい者の実態把握	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授 三谷 雅純	コミュニケーション障がい者の協力を得て、コンピューターで作成した合成音声を聞いてもらう聴覚実験等を実施、聞き取りの難しさに関する実態を把握する。
防災・減災に向けた神社および地域伝承の空間特性分析 南海トラフ巨大地震に向けた活用方策の提案	神戸市立工業高等専門学校 講師 高田 知紀	神社や地域伝承から知的資源を掘り起こしてマップ化したうえで、その防災上の価値の再評価を行い、今後の安心安全な地域づくりに活用するための方策を提案する。
地域密着型の災害時地域情報配信システムとその運用体制構築手法の提案と実証	和歌山大学 システム工学部 准教授 塚田 晃司	ラジオを活用した狭域情報配信技術や地元中高生を対象にした情報ボランティア養成プログラムを開発のうえ、地域密着の災害時情報配信システムを構築する。
マルチハザード時代の共助体制及び共助組織に関する研究	関西大学 准教授 永田 尚三	危機が多様化する中、様々な特殊災害対応を消防団が中心に担っているというわが国の現状・課題を踏まえ、実効性のある共助体制及び共助組織のモデルを提示する。
備えの力を高める災害看護シミュレーションプログラムの開発	神戸常盤大学 教授 畑 吉節未	大規模災害の想定を反映し、多様な状況下でも質の高い医療ケアを提供できるように、考え行動できる力を育むための災害看護シミュレーションプログラムを開発する。
児童の発達段階を考慮した安全教育プログラムの開発に関する実証的研究	奈良学園大学 人間教育学部 専任講師 松井 典夫	現行の安全教育の効果を客観的に測定・検証することによって、児童の発達段階を考慮した汎用性の高い有効な安全教育プログラムを開発する。
家族漫画を中核装置としたアクションリサーチによる「心の防災」の理論化の試み	立命館大学 教授 村本 邦子	アクションリサーチとして実験的な取り組みを試み、災害が起こってからの「心のケア」でなく、災害の影響を最小限に食い止める「心の防災」のための理論としてまとめる。
南海・東南海地震による想定津波の不確実性とこれを踏まえた避難計画の評価	京都大学 防災研究所 准教授 森 信人	想定津波の不確実性を評価する手法を開発し、浸水範囲の不確実性と避難経路の妥当性について検討したうえで、現在策定されている避難計画の問題点を明示する。
安全で安心できる社会創造のための「いのちの教育」の構築、普及・展開の基礎的研究	神戸常盤大学 教育イノベーション機構 機構長・教授 柳 敏晴	現行の防災・減災教育を分析・評価したうえで、野外活動を応用した「いのちの教育」の理論構築を行い、防災・減災教育のモデルプログラムとして提示する。
研究助成小計 14件		
<総合計> 58件		

【別紙 2】

「平成 27 年度公募助成（活動及び研究）」の審査結果について

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
事業審査評価委員会 委員長 白取 健治

「平成 27 年度公募助成（活動及び研究）」に多数の応募をいただき、深くお礼申し上げます。

応募いただいたどの案件も、「安全で安心できる社会」に対する強い思いが伝わってくるものであり、事業審査評価委員会委員一同、一つひとつの申請書を丁寧に拝見させていただき、慎重に議論を重ねながら審査をさせていただきました。

今回、助成対象となった団体や研究者の方々だけでなく、応募いただいた皆様が真摯な取り組みを継続的に行っていくことが、「安全で安心できる社会」の実現につながる道になると、我々は信じています。

1. 応募状況

「平成 27 年度公募助成（活動及び研究）」では、募集テーマを「事故、災害や不測の事態に対する備えやその後のケアに関する活動や研究」として募集いたしました。

活動助成及び「活動助成（特別枠）」においては、東日本大震災や台風 12 号災害及び平成 26 年広島土砂災害を受け、事故・災害時における地域の人々の拠り所としての地域コミュニティの重要性が再認識されていることに注目し、近畿 2 府 4 県における地域での新たな仕組みづくりやネットワーク構築など『地域との連携やつながり』を重視する活動を前年度に引き続き重点対象としました。

また、募集開始前から、近畿 2 府 4 県の社会福祉協議会や市役所、ボランティア情報センター、NPO 支援機関や大学等を対象にした広報活動を行い、募集期間中に助成に関する個別相談会を開催するなど、この公募助成制度をより多くの方々に知っていただくとともに、募集テーマの浸透に向けて積極的な広報活動を展開しました。

その結果、応募件数は活動助成（特別枠）が 25 件と前年を下回ったものの、特別枠以外の活動助成が前年度より 17 件増え 65 件、研究助成でも 46 件となり前年を 3 件上回りました。結果、合計で前年より 13 件多い 136 件（前年 123 件）の応募をいただきました。

2. 審査プロセス

審査は、これまでと同様、まず事業審査評価委員会を開催し、審査基準や具体的な審査方法等を確認したうえで進めました。

7 名の委員全員が全案件の申請書をじっくりと読み込み、1 次審査と 2 次審査において全案件について各自で評価を行いました。その後、最終審議の場として改めて事業審査評価委員会を開催し、各委員が 2 次審査の評価を持ち寄り、集中的な討議の末、採択案を決定するとともに、その結果を理事会に答申しました。

審査にあたっては、本公募助成の趣旨に合致することを最も基本的かつ重要な判断基準としながら、「社会的な必要性」、「独創・先駆性」、「計画性」、「経費の合理性」、「地域における連携やつながり」に加えて、特定分野に偏らないよう活動や研究の分野別バランス等を総合的に勘案し、採択案を決定しました。

なお、これまで当財団から助成を受け、今回も申請があった活動に対する継続助成の審査にあたっては、新規案件と同様の視点で審査を行うのみならず、当財団が継続して助成を行う必要性や、今後の発展性、社会に対する影響力を十分に吟味したうえで、採択案を決定しました。

3. 審査結果

今回の募集でも、質の高い応募が多数寄せられました。これは、本公募助成が回を重ねながら、個別の相談会の開催や社会福祉協議会や市役所、ボランティア情報センター、大学等を通じた広報活動が実を結んだことに加え、助成活動の活動発表会等を通じて募集テーマが浸透した表れだと考えています。

最終的には、当初予定していた助成総額 5,000 万円を上回り、活動助成では 32 件、1,879 万円（前年度 27 件、1,616 万円）、活動助成（特別枠）では 12 件、755 万円（前年度 14 件、886 万円）、研究助成では 14 件、2,434 万円（前年度 13 件、2,398 万円）、合計では 58 件、5,068 万円（前年度 54 件、4,900 万円）を採択案件として理事会へ答申いたしました。採択率は、活動助成が 49%（前年度 56%）、活動助成（特別枠）が 48%（前年度 44%）、研究助成が 30%（前年度 30%）、全体で 43%（前年度 44%）と昨年並みになりました。

(1) 活動助成

全体的には、東日本大震災に代表される災害報道や、昨今の異常気象等による防災・減災意識の高まりを受け、防災・減災に関する応募が多く、採択案件も多数にのびりました。この他、心のケアに関する案件や救急救命関連にも多くの応募をいただき、防災・減災関連に次いで採択いたしました。

(2) 活動助成（特別枠）

東日本大震災等の被災者・被災地支援に関する活動については、発災からの時間の経過に応じ、今の段階で被災者が求める活動として、心のケアや復興に関する案件を中心に採択いたしました。

(3) 研究助成

活動助成と同様に、防災・減災に関する応募が多数寄せられ、当該分野の採択数が多くなりました。また、限られた助成金の中で研究分野のバランス等も重視した結果、心身のケアや救命、復興、安全など幅広い分野から本公募助成の趣旨に合致し、社会的必要性が高く独創的、先駆的な案件を採択いたしました。

4. 総評

今回も質の高い、熱意あふれる応募を多数いただき「安全で安心できる社会」の実現に向けた素晴らしい活動や研究に対して助成できることを大変光栄に思います。

昨年と比較すれば、活動助成（特別枠）で応募の減少がみられました。しかし、それを除く活動助成に対する応募は前年より 17 件増加しました。これは、社会福祉協議会や各市役所、ボランティア情報センター、NPO 支援機関等を中心に、直接出向いて訪問した事前の広報活動の結果と思います。

来年度以降も引き続き募集要項や申請書の見直しを行うなど、より一層申請者が応募しやすい環境を整え、さらに質の高い案件の応募が多く寄せられるような工夫をしていく必要があると考えています。

「安全で安心できる社会」の実現は、一朝一夕で達成できるものではありません。「安全で安心できる社会」の実現に向けて真摯で地道な取り組みをされている皆様、そして新しく取り組みを開始される皆様のご活躍をお祈りしております。